彩の国シェイクスピア・シリーズ 第18弾

オセロー OTHELLO

蜷川幸雄、ヴェニスへ―。
今、自分が『オセロー』を演出するのは何故か？
その答えを発見するために旅に出た。
デズデモーナを演じる蒼井優を伴っての旅で確信したものは、
ローマ文明に息づく巨大な神話世界の中で翻弄される純粋な2人の魂
―オセローとデズデモーナの悲劇を描くこと。
悲劇の演出家（ニナガワ）による最高傑作誕生の予感だ。

文=木俣 冬（フリーライター）

ストーリーの光と闇を担う、主人公オセロー

『オセロー』はオセロゲームの語源のごとく、黒が一転白になるように、ともすれば旗手イアゴーに視点が行ってしまう作品。出世のために手練手管で上司オセローを追い込む役割に魅力を感じてしまうのだ。名優が演じる役でもあり、かつて中村勘九郎（現十八代目勘三郎）もイアゴーを演じている。実際ケネス・ブラナーがイアゴーを演じた映画版『オセロー』（96年）はかなり意識的にイアゴーを中心に据えていた。

しかし蜷川幸雄が言うようにあくまでタイトルが『オセロー』だから、失墜する巨星オセローの物語として味わうのが王道。オーソン・ウェルズ主演の映画版は憂いあるオセローの表情に心惹かれるし、ローレンス・オリヴィエ主演の映画版（舞台版とほぼ同じに撮られたもの）は激しくセクシャルで自信に満ち溢れている（登場の仕方も圧巻）。

宣伝美術用の撮影時、吉田鋼太郎は「エキゾチック、エレガンス、情緒の三本柱でオセローに挑む」と語った。高橋洋もハムレットの次に台詞が多い難役・悪の華イアゴーに闘志を露わに。吉田と高橋は何度か共演しているが今回ほど密に絡むのははじめて。パワフルな舞台俳優同士、強烈な熱放射をし合うだろう。一方、撮影時白いドレスを着た蒼井優は、儚そうでいてオセローを最後まで愛する強さをもったデズデモーナにふさわしく、清らかで侵しがたい光りをたたえていた。蜷川の言う「神話の崩壊」という美しくも壮大な悲劇を背負うのにふさしい俳優たちだ。

KOTARO YOSHIDA

吉田鋼太郎（よしだ こうたろう）
オセロー

蜷川演出舞台では『コリオレイナス』『オレステス』『タイタス・アンドロニカス』『間違いの喜劇』『メディア』『オイディプス王』『グリークス』等多くの作品に出演。タイトルロールを演じた『タイタス・アンドロニカス』の英国公演（2006）では絶賛を浴びた。ほかに、栗山民也演出『喪服の似合うエレクトラ』、ジョナサン・ケント演出『ハムレット』など、様々な演出家の舞台に出演している。第6回読売演劇大賞男優賞、第36回紀伊國屋演劇賞個人賞などを受賞。

YU AOI

蒼井優（あおい ゆう）
デズデモーナ

99年ミュージカル「アニー」で約1万人の中から選ばれ、デビュー。01年『リリイ・シュシュのすべて』で映画デビュー。その後、若手女優の中でも、どんな役でもリアリティーを持って演じられる幅広さ、圧倒的な存在感持つ実力派として高く評価され、映画を中心にテレビ、CMでも活躍し注目を集めている。06年は『ハチミツとクローバー』、『フラガール』など数多くの映画作品に出演し、女優賞を総なめ、女優としてのキャリアを重ねている。蜷川演出舞台は04年の「シブヤから遠く離れて」以来2度目となる。

YO TAKAHASHI

高橋洋（たかはし よう）
イアゴー

97年ニナガワ・スタジオのオーディションを受け合格、98年『ロミオとジュリエット』バルサザー役で初舞台を踏む。以後、蜷川作品に連続して出演。『近代能楽集～卒塔婆小町』、『真情あふるる軽薄さ2001』では主役をつとめる。近年の出演作に『タンゴ・冬の終わりに』『あわれ彼女は娼婦』『白夜の女騎士・ワルキューレ』などがある。過去の彩の国シェイクスピア・シリーズ『お気に召すまま』『間違いの喜劇』『恋の骨折り損』には、いずれも重要な役で出演している。

interview インタビュー 蜷川幸雄 YUKIO NINAGAWA

特別番組撮影のため、ヴェニスにて（テレビ朝日系9月放映予定）

オセロー、黄昏の神話

ヴェニスに行ったのはこれで4回目。2度目の『オセロー』を演出するに当たり、舞台であるヴェニスにもう一回行って、ちゃんと見てみたかったんです。なぜ『オセロー』なのか？を検証するために。

神話の崩壊を描きたい

サンマルコ広場に立つと、真夜中にここをデズデモーナが駆け抜けて、ドゥカーレ宮殿の階段を駆け上がるというシーンが浮かびます。一緒に行ったデズデモーナ役の蒼井優ちゃんは、実際に階段をあがってみて、「来てよかった」と言っていました。ここで感じたことを演技に生かしてもらいたいですね。

夕暮れになると、サンマルコ広場にさーっと西日が当たり、黄金に光る。黄昏の聖なる時間を味わえました。

ヴェニスに来て改めて感じたのは、豪奢な貴族社会や支配体制下にあって、徹底的な美意識に取り囲まれている世界だということ。ゴンドラが運河を流れるように、ゆったりとした時間が流れている。我々アジアの人間から見ると異質な神話的時間と空間なんです。

そういった繊細で豪華の極みを尽くした世界の中で、異分子である黒人のオセローが、その世界の代表的存在である白人の大貴族の娘と結婚することは、一大悲劇だと確信しました。美しく無垢な魂は必ず邪悪なものに破れるに決まっているものです。

豪奢の極みヴェニスから、物語は戦場の最前線キプロスへ。そこでは男の闘争心が露わになる場所。ヴェニスの神話は男達の汗や暴力で壊れていきます。嫉妬やねじまがった鬱屈を抱えたイアゴーが神話を崩壊させていくんです。

僕は今度の『オセロー』で、ひとつの神話の崩壊を描きたいと思います。

日常化されたような『オセロー』には興味はありません。例えば、デズデモーナがオセローにもらったハンカチをイアゴーが使いオセローを陥れる場面。オセローは単なる嫉妬で失神してしまうような矮小な人物じゃない。異物としての特権的でなければいけない。圧倒的な強さや性的な魅力をもっていてほしいんです。

オセロー役の吉田鋼太郎もイアゴー役の高橋洋も責任重大ですよ。彼らがきちんと演じることで、ある種の商業主義と別個に本当の意味で魅力的な俳優の演劇的価値を高めることができると思っています。優ちゃんには「とにかく、オセローを本当に信じて好きになってほしい。美しく無垢であってほしい」と話しました。

因縁深き『オセロー』

実は『オセロー』には因縁があるんです。以前、ベルリン・ドイツ・オペラでオペラ『オテロ』の演出をやる企画があって、現地で打ち合わせまでしたにも関わらずやらなかったんです。指揮者ジュゼッペ・シノーポリと当時の総裁ゲッツ・フリードリヒにも会いましたよ。でも結局オペラはヨーロッパには敵わないなぁって思って……。そういえば、あの時泊まったホテルにも西日が射し込んでいた。僕には『オセロー』と言えば、ベルリン、西日というイメージがあります。

今度はしっかりやりきりたいですね。

●●●●● PLAY ●●●●●

彩の国シェイクスピア・シリーズ第18弾 『オセロー』

【日時】10月4日（木）～10月21日（日） 全18公演
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
【演出】蜷川幸雄 【作】W. シェイクスピア 【翻訳】松岡和子
【出演】吉田鋼太郎 蒼井優 高橋洋 馬渕英俚可 鈴木豊 山口馬木也 瓶晴彦ほか
【チケット（税込）】好評発売中
一般 S席9,000円 A席7,000円 B席5,000円 学生席2,000円
メンバーズ S席8,100円 A席6,300円 B席4,500円

OCTOBER	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
曜日	木	金	土	日	月・祝	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
13:00							●		●	●	●		●		●		●	●
19:00	●	●		●	●			●						●		●		